

これは、もう一つの「女の一生」の物語…

あらすじ

芝居は、説教聖と三味線女が登場し「日の浦姫物語」を語る、とうかたちで始まります。語りはいつしか実際の人びとによって演じられ物語が進んでいきます。

時は平安時代中期(一〇四〇年ごろ)、所は奥州岩城国米田庄(福島県浜通り地方)。旗本藤原成親の子、兄稻若と妹日の浦姫は双子。十五歳になった日の浦姫は兄とのたった一度の交わりで子を宿してしまいます。しかし、兄はその子を見ることなく、草賊に襲われ命を落とします。絶望の中で日の浦姫は子を産みますが、叔父宗親に「罪の子は海へ流せ」と命じられ泣く泣く従います。赤児は幸運にも拾われ、十八年の歳月が過ぎ美しい青年となつて、再び日の浦姫(母親)の前に現れます…

9月28日
土曜日

時間:13:30開演(13:00開演)

会場:川西町フレンドリープラザ ホール(全席指定)

料金:一般 5,500円/PLA's会員 5,000円/青少年席(U24) 2,000円 ※各当日500円増

◎地方公演は川西町だけです。この機会にぜひ!



近親相姦をテーマにした理由は何だったのでしょうか。

前頁で引用の公演プログラムの先に次のようなことが書かれています。

「せまい国土に大勢の人間、ひとつのこゝとば、ひとつの文化、そして、ひとつの中央(天皇と呼びかえてもよいが)みんなそれぞれ近親者のように似ている。近親相姦の社会なのだ。(中略)ここ数年間で心の底に発見した近親相姦的感情のよろもろを懺悔したくてこの芝居を書いた」と記しています。

身近な人たちが家族のように寄りかかって生きている社会、日本人特有のもののかたや考え方が、社会全体のあやうさを生み出しているのではないか…そのようなことを井上は考え続け、この作品を書いたのではないのでしょうか。そしてその視点は生涯にわたって作品や発言に投影されていくようにもみえます。

(学芸員 遠藤)



井上ひさし展示室
著作資料展
開催期間 8月6日(火)〜10月27日(日)

「日の浦姫物語」は、井上ひさしが一九七八(昭和五三)年に、文学座と杉村春子のために書き下ろした戯曲です。演出は、井上芝居を多く手掛けた木村光一氏。

井上がこの作品を書くに至った動機は、高校の三年間を過ごした児童養護施設ラ・サールホーム(仙台)で聞いた「グレゴリウス一世の一生」だったといっています。井上は、初演の公演プログラムに次のように書いています。

「ある王国の王位継承者の兄と妹が交わってその罪の子としてこの世に呱呱の声をあげた哀れな存在。それが成人して、知らずに実母の夫となる。やがてすべてがあらわれ、彼は海辺の岩の上で十七年間、懺悔の生活を送る。そこを神に見出され、最高のキリスト者、地上における神の代理人すなわち教皇となり、

死後、列聖される」。グレゴリウス一世の一生を二百字にまとめるとうなるが、兄と妹との情交、母と子の結婚は兄妹や母を持たない「孤児たち」には激しい衝撃を与えた。

少年から青年になろうとしていた若き井上にとつては強い衝撃だったと思われる。後年、グレゴリウス伝「選ばれし人」(「トマス・マン全集VII」収録 新潮社刊)を読んだこの衝撃はさらに増幅され、加えて「古事記」や日本の古典にも近親相姦を描いた説話が多くあることに気づいたといっています。



▲初演時1978年「新劇」6月号に掲載されていた広告

トランクシアタープロジェクト 2019



10月10日(木)
時間:19:00開演(18:30開演)
会場:ホール 舞台上 全席自由
料金:一般 2,000円
PLA's会員 1,800円
高校生以下 1,000円

「トランクシアター・プロジェクト」は、長野県芸術監督団事業として二〇一八年にスタートした、地域の実行委員会と協働で作りに上げるプロジェクトです。二〇一九年秋に、いよいよ第2弾として、長野県芸術監督の串田和美が脚本・演出を手掛ける新作「月夜のファウスト」で長野県内11カ所と、仙台、川西をツアーします。串田和美は俳優・演出家、舞台美術家にして現在まつもと市民芸術会館館長。ベテランの串田和美が新人俳優を養成しながら、トランクひとつに演劇を詰め込んで、通常の劇場とは異なる空間を会場に、実験的な舞台を創造します。

「日の浦姫物語」+「月夜のファウスト」
2公演セットのお得な割引チケット(限定50席)
トランクシアター公演
「月夜のファウスト」
(主演・演出:串田和美)
公演日時/2019年10月10日(木) 19:00開演
詳しくはお問い合わせください



串田和美 (くしだ・かずよし)

1942年生まれ。俳優、演出家、舞台美術家。1966年、斎藤操、吉田日出子らとともに劇団自由劇場を結成(後にオンシアター自由劇場と改名)。代表作である『上海パンスキング』『もっと泣いてよフラッパー』など数々の作品で人気を集める。1985年〜96年まで東京渋谷のbunkamuraシアターコクーン初代芸術監督を務める。2003年4月、まつもと市民芸術館館長兼芸術監督に就任(現在は芸術監督)。2007年に第14回読売演劇大賞最優秀演出賞受賞、2008年4月に紫綬褒章受章。2001年『ゴドーを待ちながら』に緒形拳と出演、フレンドリープラザでも上演する。